

中国人研修生の受入事業 第6期生スタート

ACTIVE KUMIAI

山梨県アパレル工業組合（川手正紀理事長）は、平成16年から実施している『外国人研修生共同受入事業』の第6期生の受け入れをスタートさせた。第6期生となる今回は、これまでと同様に、中国江蘇省南通市からの研修生15名が来日、組合企業6社が受け入れ企業となり研修を行うこととなる。

今回、11月4日に中小企業団体中央会研修室で行われた開講式では、研修生15名の自己紹介が行われ、これからスタートする日本での研修生活に対して、研修生15名はしっかりとした日本語で自己紹介を行い、「二日も早く日本の縫製技術を学び頑張りたい」と抱負を語った。

開講式後には、(財)国際研修協力機構の担当者から受け入れ企業に対しての注意事項や研修生を巡る諸問題などの説明会も行われ、1ヶ月に渡って行われる座学研修をスタートさせた。

研修生は日常生活や技術研修に必要な日本語会話の習得を中心に、日本の生活慣習、健康管理、日本の法律や安全などを集合研修で学んだ後、組合員企業で縫製技術の習得を行い、来年11月の技能検定合格後は2年間の技能実習生として就労することとなっている。

11月6日には中央会から山本常務理事が講師を行い、日本の経済状況と中小企業について、また中国と日本のそれぞれ文化について研修生との質疑応答・対話などを交えて、終始和やかな雰囲気となった。



集合研修風景

なお、今回6期生を迎える前の10月30日には平成18年11月から受け入れを行っていた第3期生の修了式が行われた。川手理事長より研修生19名に修了書が手渡され、「日本で学んだ縫製技術やたくさん楽しい思い出とともに、中国へ帰っても頑張ってください」と激励の言葉がかけられた。



抱負を述べる6期生